

# 美術専門領域とは？

美術教育、絵画、彫刻、工芸、デザイン、美学・美術史など教科の専門性を学び、豊かな感性を持った教育現場で活躍できる小学校全科と図工専科、中高美術科教員を養成しています！！学生は、幼少時から美術に親しんでいた人もいれば、大学生になってから、中学校以来久々に美術をやる！という人も。個性的な人が集まっていますが、みんな仲良しです。卒業研究は、作品制作または論文で行い、その成果を卒業制作展で発表しています。

## 《美術科開講科目》

| 分野     | 授業科目                     |
|--------|--------------------------|
| 絵画     | 絵画実技Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ              |
| 彫刻     | 彫刻実技Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ              |
| デザイン   | 構成デザイン実技Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、デザイン概論、色彩論 |
| 工芸     | 構成工芸実技Ⅰ・Ⅱ、造形図学Ⅰ・Ⅱ、基礎造形A  |
| 美術教育   | 中等教科教育法(美術)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ       |
| 美学・美術史 | 美術理論、美術史                 |

## 《ある2年生の春学期時間割表》※2019年度春学期

|   | Monday     | Tuesday   | Wednesday   | Thursday     | Friday    |
|---|------------|-----------|-------------|--------------|-----------|
| 1 | 道徳教育の理論と方法 | 教育課程論     | 初等教科教育法(家庭) | 生徒・進路指導論     | スクールデー実践A |
| 2 | 教育経営       | 構成工芸実技Ⅰ   | 初等教科教育法(図工) | 中等教科教育法(美術)Ⅰ |           |
| 3 | 絵画実技Ⅰ      | 構成デザイン実技Ⅰ | 彫刻実技Ⅰ       | 初等教科教育法(国語)  |           |
| 4 |            | 造形図学Ⅰ     | 特別活動論       | 初等教科教育法(数学)  |           |
| 5 |            |           |             | 初等教科教育法(生活)  |           |



## 取得できる免許状・期待される進路は？

小学校教諭免許状、および中学校教諭免許状（美術）取得は必須ですが、必要な単位を修得すれば、高等学校教諭免許状（美術）の取得も可能です。  
卒業生は、公立私立の小・中・高の教員として教壇に立って活躍しています！また、大学院へ進学し、教職について研究を続けています。美術領域で培われる創造的能力が、多方面で求められています。

## 《美術専門領域の主なイベント》

新2年生・大学院生合同歓迎会、ゼミごとの交流会(不定期)、卒業制作中間発表会、ゼミ展(ゼミによって実施状況が異なる)、教育実習発表会、卒業制作講評会、卒業制作展、追い出しコンパ、謝恩会(卒業生のみ)  
※ほとんどのイベントに全学年が参加。和やかでアットホームな雰囲気です。ぜひたくさんお話ししましょう！



## 「描くこと」って何？（絵画）

今日、絵画表現は、様々なメディアによっても、多様な広がりを見せています。絵画教育では、デッサン・水彩画・版画・油彩画などの様々な課題制作を通して、こうした多様性の中でも変わることのない「描くこと」の本質を捉えることができる人材を育成します。

## 「より良い社会環境」をつくろう（デザイン）

デザインとは、人と人をつなぎ、より良い社会環境を築くことができる創造性に満ちた世界です。デザイン教育では、コミュニケーション手段としてのデザインの有用性を念頭に置き、グラフィックデザイン基礎からポスター、広告、ブランディングデザインといった総合的・専門的な課題制作を行います。



## 「実感」を共有しよう（彫刻）

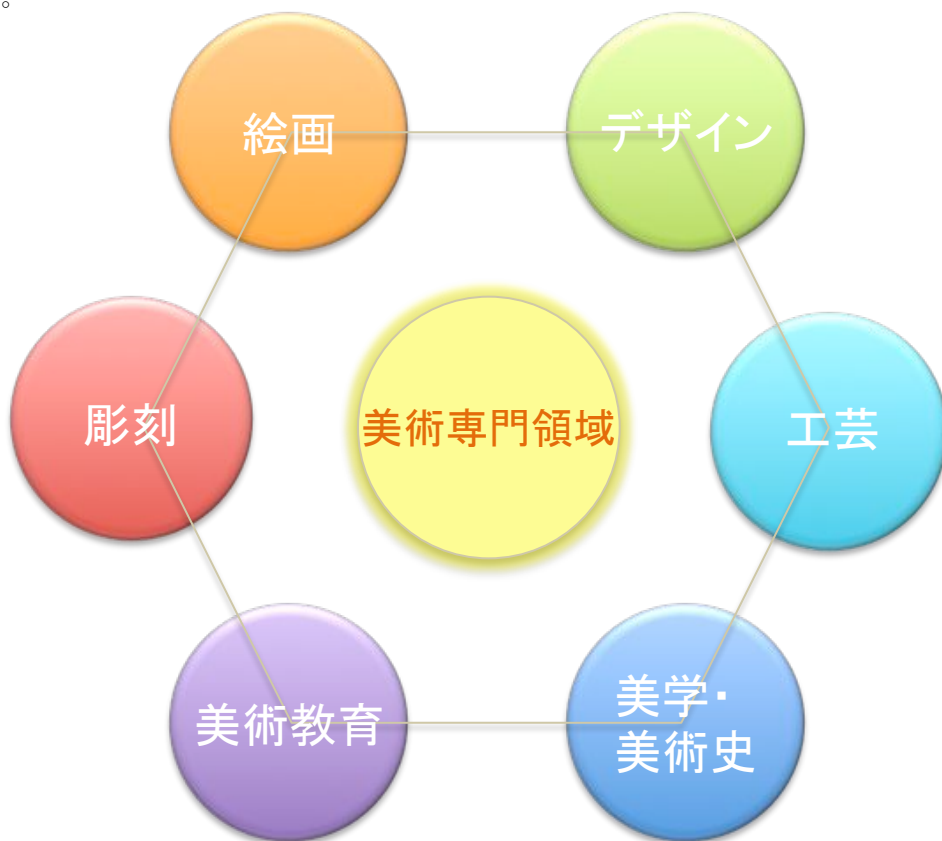
あらゆる社会、自然のなかにある心動かされるさまざまな事柄や思考を、独自の視点で捉え、現実空間へ確かな実感のあるものとして変換し、他者と共有しようとするのが彫刻です。彫刻教育では、彫刻制作の基本である塑像制作を中心として授業を進め、さまざまな事象を、表現へと展開する基本を学びます。



## 「美術って必要なの？」

### 美術教育について考えます（美術教育）

美術を「学校で教えること」の意味について改めて考えていきます。実践的な演習を通して学習指導要領の目標や内容等の基本事項や指導計画等の具体的な事項等の理解を深めながら、教師をめざす自分にとって必要なことを学んでいくと同時に、美術の学びが社会とどう関わるのかを考えていきます。



## 「豊かな生活」を実践しよう（工芸）

木・漆・金属・繊維といった様々な自然素材、伝統的な道具や技法から、自らの手で、自らが望む豊かな世界を創造しよう。工芸教育では伝統的な技法や素材を扱いながらも、従来の工芸イメージにとらわれない時代に即した柔軟な感性を養います。



## 「美術って何？」美術の本質に迫ります（美学・美術史）

美術理論では、美術で何が問われているかという根本的なことから、美術に関する人間学的・人類学的問題について思考を深めていきます。美術史では西洋美術を中心にその変容を学ぶことにより、美術の意味をとらえ直して、自分と美術との関係について主体的に考えます。

